大城ひかるのベトナム通信

シンチャオ（Xin chào）おきなわ

日本水準を求めたくなる時

タンソンニャット空港到着口を出ると、色んな人が「タクシー」と声をかけてくる（筆者撮影）

今月は3回に渡り、ベトナム生活の不快なところを綴ってきました。もちろんこれだけではなく、中には笑えない話もあります。例えば、タクシーのぼったくり。実はベトナム生活を始めたばかりのころ3回遭遇したことがあります。1度は配車アプリが上手く使えず、たまたまバイクのおじさんに声をかけられ、誘われるまま乗ってしまいました。空港から乗ったタクシーでは、采配していた人を係員と思い込み、言われるままに乗り込んでしまったら、メーターの進みがあまりにも早く、案の定20万ドンで行けるところを100万ドン請求されました。いずれも反論して事なきを得たのですが、つくづく日本は安心・安全な国なのだと実感します。

スーパーのサービスも「もう少しどうにかならないものかね」と思うことがあります。客が来てもスマホを見ているし、レジ袋の詰め方も大雑把で、持ちやすいように整えて入れるなどの発想はないようです。

先日も下宿の隣のスーパーで、入ったばかりの若い男性が品物の形も考えず次々入れるので、「ちょっとちょっと」と言って整えて入れ直しました。そのスーパーでは時々こういうことをするので、「日本人クレーマー」と思われている節もありますが、久しぶりに会ったスタッフは「Long Time No See」など声をかけてくれるので、私の行動は恐らく彼らの許容範囲なのでしょう。

レジにずらっと客が並んでいるとき、すぐに誰かが飛んできて隣のレジを開くなどは、もしかしたら日本だけかもしれません。アメリカで暮らしていた時もスーパーの品物を入れる係のお姉さんはいつもガムを咬み、どんなに客が並んでいようが、彼女のペースで作業するのでイライラしました。しかも私が「申し訳ないけど、少し急いで」というと、「は？」と言い返すのです。旅行先の北京のホテルでは、6時半からの朝食にたくさんの客が待っているにもかかわらず、「まだ5分前」と言って入れてくれませんでした。

並ぶと言えば、ホーチミンのタンソンニャット国際空港の国内線ターミナル。国内なので地元客が多く、割り込もうとするご婦人を必ず見かけます。そんなときに注意するのはたいてい欧米人か私です。あるときはあまりにも列が乱れて1列なのか2列なのか分からなかったので、交通整理してみんなを並ばせました。一度はうまくいったのですが、飛行機が遅れ1時間後にまたトイレへ行ったら元の木阿弥だったので諦めました。

海外にいると、日本の暮らしの水準の高さや、仕事に対する責任感、プロフェッショナリズムを痛感します。同時についつい日本水準を求めたくなってしまいますが、ここは異国の地。私は人生のほんの数年間をお邪魔しているにすぎません。

とは言え、いくら戒めたとしても傍観者でいるのは私の性格には合わないようです。恐らくこれからも私は杭を出したり引っ込めたりしながら、自分なりにベトナム社会と折り合いをつけ暮らしていくのだろうと思います。

（6月のベトナム通信は、6月14日号と28日号の2回掲載となります。ご了承下さい。）